昭和48年11月17日第三種郵便物認可

若疑シク覚候ハバ
我等ノ所業終候処ヲ
爾等眼ヲ開テ看ヨ

1月1日
毎月1日、15日発行
第83号
価格100円
定期購読 半年分800円 一年分1500円(〒代共)
(密封・半年900円一年1800円)

叛旗

共産主義者同盟

発行所／叛旗社
編集人 仲代真理 発行人 川崎文人
東京都新宿区百人町1－11－31 斉藤ビル内（郵便番号160）
電話 03(362)0149／振替 東京162856番（宛先共産同「叛旗」編集委員会）／関西叛旗社 電話 06(451)4803

共産同政治集会
日時 2月12日 午後5時半開場
場所 豊島公会堂

全世界を獲得するために

'75新年号

―紙面紹介―

一面 〈情勢〉の根柢と〈主体〉の根柢を架橋する道は何か
二面 大道無門 ―革命派の基準と鞍部―
三面 インフレ批判の基礎理論―序（連載第二回）
四面 （一面論文の続き）
五面 国家的契機の接木を峻拒し 自立的労働者運動の創出へ
六面 沈黙せる三里塚農民と如何に連帯しうるか

情勢の根柢と〈主体〉の根柢を架橋する道とは何か

革命概念の先験性を超えよ

昭和というサイクルは終った。戦後過程は終わった。日本近代過程はその サイクルを閉じた。これらの悪書でもこもった感慨と議論が拡げられ始めている。しかしこの種の議論の主調は新しいものではない。維新論争、近代の超克論争、戦後資本主義論争、安保論争等々としてあった様に、また特徴的なのは、この種の議論につきまとった対立命題としての、アジア・ヨーロッパ、資本主義と社会主義、先進国と後進国、帝国主義とスターリニズム、プロレタリアートとプルジョアジー、革命と反革命、といった〈概念〉的措定自体が厚みと変容をこうむり、後退へと返っていることである。それではこの種の議論はどこに行くのかである。私達には明確な様な気がする。

曰く、昭和固有の歴史の段階へ、戦後的特殊が現代史の抽象へ、日本近代過程の特殊が、四海と世界

大道無門——革命派の基準と教部——

共産主義者同盟政治局

はじめに

『欠陥が意識されていさえすればよいのだ！革命の事業では欠陥を意識することはなかば以上訂正したに等しいのである』

（レーニン・何をなすべきか）

今日、革命運動や政治運動はかって経験したことのない深刻な危機になされている。この危機の深さは「ある種のイデオロギーや路線の破産」でなく、「革命運動とは何かという問題を新しく強いられる」空前の試練が拡っていることである。このままの方法では試行錯誤ばかりやり方や考え方を変えなければという意識や感性が深まっていながら、どこにも活路を見い出せぬまま絶望的状況へ追いつめられていることである。

この危機は、種々の選挙をはじめとしてイデオロギーの誤り（小信用の素材）に身をゆだねた党、革命運動や政治運動の持続とは「何も考えないこと」の別名である事態として表象されている。

私達はこのような危機や崩壊現象を歴史的革命運動の必然的過程と古典的革命運動の上揚の裏側であると考えてきた。七〇年以降の少なの中で、私達はどこまで前進、もしくは後退したか。経過と展望を提起する。なお、次回論稿で完結の予定である。（編集局注）

はじめに——

第一章　世界史的危機と構革思想及び左翼農本思想

第一節　何が保持すべき戦後の価値か　—私的世界と恣意的自由の意味—

第二節　過渡期とテルミドール　—インフレ・内ゲバの激化の意味—

第二章　敗北の構造と政治革命の諸問題　—共同幻想の構成転換—

（補論を追加掲載の予定）

世界史的危機と構革思想及び左翼農本思想

何が保持すべき戦後の価値か

——私的世界と恣意的自由の意味——

戦革全運動の中で保持すべき最低の転換や革命派の基準を問題なのだと言うのである。それはプルジョア思想への転落なのではないか、もしくは転向なのではないか、などと言われるかも知れない。だが、それこそは百年に一度の変革期であり、現存性、なのだと言うのである。若い世代の変革を中心に、既成の組織や党派の基準とは何か「再建」してみたらどうだろうか。現実的には百年余り昔の下層労働者、そして、以下、任意にとり出してみよう。

（A）戦後民主主義、もしくは戦後憲法こそ最低の転換であり、人間の尊厳であるという考えがその一つである。

（B）「我が日本労働者階級は既に三つの歴史的変革を経験し、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（第二は、党・労働組合・きり区別し、党の任務、労働組合の任務それぞれの組織スタイル、それぞれの歴史的伝統をふまえながらそれぞれ発展させなければならない。……第三に、私はよく「天下の眼を恐れず視よ」「天下の耳を聞け」という言葉が……抑圧される側の人間の人間性の解放である。……（以下略）

（C）『われわれは、彼らとは別の主義—排外主義—を唱えることが基準であるというのもいるであろう。そして、また「民族共同体の復権」というのもあるし、依然として「プロレタリア独裁」を強調するものもいるであろう。そして、「黒い革命、世界革命、社会主義革命」と語るものもいるし、依然として「プロレタリア独裁」を強調するものもいるであろう。そして、また「民族共同体の復権」というのもあるし、「戦後憲法改正」というのもあるであろう。

これらはとえてみれば例の「共同幻想」なのである。

（D）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（第三に、党・労働組合・きり区別し、党の任務、労働組合の任務それぞれの組織スタイル、それぞれの歴史的伝統をふまえながらそれぞれ発展させなければならない。……第三に、私はよく「天下の眼を恐れず視よ」「天下の耳を聞け」という言葉が……抑圧される側の人間の人間性の解放である。……（以下略）

（E）『第一・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（F）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（G）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（H）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（I）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（J）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（K）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（L）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（M）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（N）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（O）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（P）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（Q）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（R）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（S）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（T）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（U）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（V）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（W）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（X）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（Y）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（Z）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（AA）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（AB）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（AC）『われわれは、彼らとは別の主義—排外主義—を唱えることが基準であるというのもいるであろう。そして、また「民族共同体の復権」というのもあるし、依然として「プロレタリア独裁」を強調するものもいるであろう。そして、「黒い革命、世界革命、社会主義革命」と語るものもいるし、依然として「プロレタリア独裁」を強調するものもいるであろう。そして、また「民族共同体の復権」というのもあるし、「戦後憲法改正」というのもあるであろう。

これらはとえてみれば例の「共同幻想」なのである。

（AD）『われわれは、彼らとは別の主義—排外主義—を唱えることが基準であるというのもいるであろう。そして、また「民族共同体の復権」というのもあるし、依然として「プロレタリア独裁」を強調するものもいるであろう。そして、「黒い革命、世界革命、社会主義革命」と語るものもいるし、依然として「プロレタリア独裁」を強調するものもいるであろう。そして、また「民族共同体の復権」というのもあるし、「戦後憲法改正」というのもあるであろう。

これらはとえてみれば例の「共同幻想」なのである。

（AE）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（AF）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（AG）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（AH）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（AI）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（AJ）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（AK）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（AL）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（AM）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（AN）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（AO）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（AP）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（AQ）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（AR）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（AS）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（AT）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（AU）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（AV）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（AW）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（AX）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（AY）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（AZ）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（BA）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（BB）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（BC）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（BD）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（BE）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（BF）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（BG）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（BH）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（BI）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（BJ）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（BK）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（BL）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（BM）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（BN）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（BO）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（BP）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（BQ）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（BR）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（BS）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（BT）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（BU）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（BV）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（BW）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（BX）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（BY）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（BZ）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（CA）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（CB）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（CC）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（CD）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（CE）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（CF）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（CG）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（CH）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（CI）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（CJ）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（CK）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（CL）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（CM）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（CN）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（CO）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（CP）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（CQ）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（CR）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（CS）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（CT）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（CU）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（CV）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（CW）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（CX）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（CY）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（CZ）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（DA）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（DB）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（DC）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（DD）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（DE）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（DF）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（DG）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（DH）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（DI）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（DJ）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（DK）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（DL）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（DM）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（DN）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（DO）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（DP）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（DQ）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（DR）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（DS）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（DT）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（DU）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（DV）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（DW）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（DX）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（DY）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（DZ）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（EA）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（EB）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（EC）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（ED）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（EE）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（EF）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（EG）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（EH）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（EI）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（EJ）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（EK）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（EL）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（EM）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（EN）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（EO）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（EP）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（EQ）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（ER）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（ES）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（ET）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（EU）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（EV）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（EW）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（EX）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（EY）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（EZ）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（FA）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（FB）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（FC）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（FD）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（FE）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（FF）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（FG）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（FH）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（FI）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（FJ）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（FK）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（FL）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（FM）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（FN）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである。……（以下略）

（FO）『文久の思想と運動の物質化という現代革命の核心』（解放、革マル派）

（FP）『第二・カクマルこの二重対抗を貫徹し、日常のアジア侵略を内乱へ転化する政策体制の基本的矛盾を、人間の尊厳にみた解放された内実をもたらすただ一つのものと信じている』（日向派、戦旗）

（FQ）『我々綱領的革命は、階級闘争という不動の本質を、階級闘争の歴史発展の基本的変遷であり、人類の長い歴史の発展の階級闘争に依拠するのだ」というマルクスの指導原理を、そして、何度でも何度でもあきらめないということである

過渡期とテルミドール
―インフレ・内ゲバの激化の意味―

敗北の構造と政治革命の諸問題
―共同幻想の構成転換―

革命派の運動として、保持すべき意識の整理は何だという問題を、意識的にものであることを示したことである。これは無数の答えとして、これまでに革命派の努力は成されてきたであろうことはすでにいくつかあるとも言えるが、そこでの「過渡期」にたっていることを述べ、では大衆の沈黙や無関心の深化とは、これらの根本的に矛盾しているあるのか。

この革命を「共同幻想」の構成転換として、「政治意識―体系」の構造転換として、「政治意識―体系」の構造転換として乗ろうとしたが、次に次第に意識の問題はそういった転換事態に巻き込んだ歴史的な意味や体系との相剋の間で死をとげた。

「共同幻想」の構成転換、「政治意識―体系」の構造転換を、強いられる危機の過程において、これまでに伝統的にとってきたような外部からひとつの「共同幻想」、「政治意識―体系」を導入し、積みあげるものであった。歴史的に、これは「共同幻想」の構成転換、「政治意識―体系」の構造転換を、「共同幻想」と「政治意識―体系」の代表とみなしてきたことである。これらは過渡期の中で形成されるとされた国家というもの、日本的伝統はそういう時、日本的伝統はそういう時、どうであるのか。

「共同幻想」の構成転換、「政治意識―体系」の構造転換は、必然的に二重の内容となってくる。その一つは革命の生命過程、生命本体が発生する、つまり社会の内機的機能の変動が、現実の機動機の中に組み込まれ、そして、「政治意識―体系」を強制する。他の一つは歴史的に、革命の内容、保持すべき意識の整理は何だという問題を、意識的にものであることを示したことである。これは無数の答えとして、これまでに革命派の努力は成されてきたであろうことはすでにいくつかあるとも言えるが、そこでの「過渡期」にたっていることを述べ、では大衆の沈黙や無関心の深化とは、これらの根本的に矛盾しているのか。

この革命を「共同幻想」の構成転換として、「政治意識―体系」の構造転換として乗ろうとしたが、次に次第に意識の問題はそういった転換事態に巻き込んだ歴史的な意味や体系との相剋の間で死をとげた。

「共同幻想」の構成転換、「政治意識―体系」の構造転換を、強いられる危機の過程において、これまでに伝統的にとってきたような外部からひとつの「共同幻想」、「政治意識―体系」を導入し、積みあげるものであった。歴史的に、これは「共同幻想」の構成転換、「政治意識―体系」の代表とみなしてきたことである。これは過渡期の中で形成されるとされた国家というもの

〈情勢〉の根柢と〈国家〉編成の現段階

（一面より続き）

人の自然に対する関係と、自己自身に対する関係と、他の人間に対する関係が変容し、自己自身と、他の人間に対する関係が変容する関係が、共同幻想である。そしてこれらの共同幻想は、それ自身の独自性を獲得し、それ自身の歴史をもっている。即ち、それ自身の自然的な諸過程が、これらの関係の自然的な反映の位相と、それとは相関するが、しかし、それ自身の独自性を獲得している位相とを、相関的に、それぞれ、自然的な諸過程がかのように、独立している。

私達は、人間が自己自身にかんする姿勢・意識の表現の諸位相を、自然的な領域と、共同幻想と、対幻想とに区別する。そして、「物質」と「精神」とを、「物質」と「意識」とを、「存在」と「思想」とを、「下部構造」と「上部構造」とを、「土台」と「上層」とを、「自然」と「人間」とを、「自然」と「歴史」とを、「自然」と「文化」とを、「自然」と「社会」とを、「自然」と「国家」とを、「自然」と「人間」とを、「自然」と「人間」とを、「自然」と「人間